

《担当者名》今井 常晶(心) imai@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

本講義では、知的・発達障害教育に従事したとき、知的・発達障害児の特徴を理解した上で、適切な支援ができるための知識や態度および技量を身につけることを目的とする。また、人の発達の筋道や発達の特徴を知り、障害を発達の観点から理解できるようになることも狙いとする。

【学修目標】

乳児期から児童期にかけての人の成長・発達が理解できる。

知的障害・肢体不自由・病弱の各障害の特徴について、発達の観点から理解できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	授業の概要について理解する。	今井
2	特別支援教育のシステム	特別支援教育の制度について理解を深める。	今井
3	知的・発達障害児理解のための発達段階	乳児期の運動・知覚の様相について理解を深める。	今井
4	知的・発達障害児理解のための発達段階	乳児期の愛着の形成について理解を深める。	今井
5	知的・発達障害児理解のための発達段階	乳児期の言語の獲得について理解を深める。	今井
6	知的・発達障害児理解のための発達段階	幼児期の遊びについて理解を深める。	今井
7	知的・発達障害児理解のための発達段階	幼児期の自我の形成と仲間関係について理解を深める。	今井
8	知的・発達障害児理解のための発達段階	幼児期の描画や読み書き能力の発達について理解を深める。	今井
9	知的・発達障害児理解のための発達段階	児童期の思考や仲間関係の発達について理解を深める。	今井
10	知的障害の理解	知能の発達とアセスメントについて理解を深める。	今井
11	知的障害の理解	知的障害の特徴・教育課程・対応について学ぶ。	今井
12	肢体不自由の理解	運動発達の原則とアセスメントについて理解を深める。	今井
13	肢体不自由の理解	肢体不自由の特徴・教育課程・対応について学ぶ。	今井
14	病弱の理解	病弱の特徴・教育課程・対応について学ぶ。	今井
15	まとめ	全体のまとめをし、今後の課題を整理する。	今井

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による。

【評価方法】

授業内で課すレポート課題で評価する(100%)

【教科書】

使用しない。

【参考書】

適宜授業内で紹介する。

【備考】

- ・適宜資料を配布する。

【学修の準備】

授業範囲を予習し（90分）、専門用語の意味等を理解しておくこと。
各回に学んだことを改めて復習しておくこと（90分）。

【免許法施行規則に定める科目区分等】

「特別支援教育に関する科目」（特別支援教育領域に関する科目）

心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目

中心となる領域：知的障害者

含む領域：肢体不自由者・病弱者

【実務経験】

発達障害児に対する発達支援の実務経験あり（公認心理師・言語聴覚士・音楽療法士）。

【実務経験を活かした教育内容】

すべて回で、関連した事例があれば話題提供する。